

オオサンショウウオ (はんざき・はんざけ)

■町内唯一の特別天然記念物

オオサンショウウオ、関東に住んでいる頃は雲の上の存在でした。滅多なことでは野生個体に出会えることはないと思いついでいました。ところが、なんと今は自転車で行けるところに生息地があり、折々に対面することになりました。今回の写真は、9月23日に町内で河川工事



東長田川水系にて 撮影：桐原真希
ワシントン条約附属書Ⅰ・特別天然記念物(1952年指定)
環境省指定絶滅危惧Ⅱ類(VU)・鳥取県指定絶滅危惧Ⅱ類(VU)

予定地から見つかった個体です。70センチ以上の大きさに、彼らが生きて行ける場所が米子からわずか車で30分程のところにあることに、改めて驚かされます。主に西日本に生息している世界最大級の両生類。他の分布域は、市街地から車で1時間以上山へ入らないと出会えない場所に棲んでいます。しかし一方で、南部町の生息地は他県の状況に比べて、絶滅の恐れが最も高い場所とされています。

■日本オオサンショウウオの会

京都大会に参加してきました

10月12日と13日、京都で開催されたハンザキの全国大会に、南部町を代表して参加してきました。海外の研究者や山口、大分、広島などハンザキ生息地の都道府県関係者約170名が集まりました。夜の観察会では、1時間足らずでチュウゴクオオサンショウウオと日本のオオサンショウウオの交雑種が20頭ほど発見され、京都鴨川水系では想像以上に交雑問題が深刻であることを知らされました。来年は

東広島市で開催される予定です。南部町も平成27年以降の大会開催地として立候補しています。科のレベルでは1億年という地球の歴史を背負った、世界でも稀な野生生物が同じ町民であることは、幸運のひとつと言つていいでしょう。川の豊かさのシンボルでもあるオオサンショウウオ、彼らと良い関係を構築していければと思います。

■発見したら教育委員会へ

現在研究者によって、町内のハンザキ16頭に個体識別用のマークを埋め込んでいます。もしカゴ罫にかかったものや、弱っている個体を発見されたら教育委員会(電話64・3787)にご一報下さい。また咬まれると危険ですので、顔のそばに手を持っていかないようご注意ください。



自然観察指導員 桐原真希

祐生出合いの館【緑水湖畔】インフォメーション ■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日

『読書を誘う—出版物ポスター展』

10月11日(金)～12月8日(日)



祐生コレクションから、出版物ポスター39点、書籍64点を展示しました。祐生の蒐集した思いをご覧ください。

『児童作品今昔展』 10月17日(木)～12月15日(日)



学校草創期から、児童作品展は盛んに行われていました。明治・大正時代と現在の指導の在り方の違いをご鑑賞ください。